

# 噴火警戒レベルを 焼岳に導入

気象庁では、焼岳について、噴火した時などにとるべき防災対応などを示した『噴火警戒レベル』を3月31日から導入しました。

## 5段階に区分して 警戒を呼びかけ

焼岳周辺は、奥飛騨温泉郷、上高地と全国的にも有数の観光地があり、住民の安全確保はもとより、入山規制など観光客への迅速な対応も課題です。そのため、平成22年3月に焼岳火山対策協議会を設立し先月2日、「噴火警戒レベル」に合わせた火山防災計画を策定しました。

今回導入した「噴火警戒レベル」は、噴火時などにとるべき対応を踏まえて、レベル1「平常」からレベル5「避難」の5段階に区分し、警戒を呼びかけるもので、それぞれのレ



焼岳

ベルには、火山周辺の住民、観光客、登山者のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードが設定されています。

なお、噴火警戒レベルの導入は、県内では御嶽山に次いで2例目となります。

## 焼岳の噴火に 結びつく状況なし

一方、市内では奥飛騨温泉郷地域を中心に地震による頻繁な揺れが観測されており、焼岳の活動による火山性の地震ではないかということが心配されますが、気象庁からは現時点で焼岳の噴火に結びつくような状況ではないので心配ない旨の報告を受けていま

国内の活火山の状況

区分	過去の活動度	火山数	高山市
ランクA	活動度が特に高い活火山	13	—
ランクB	活動度が高い活火山	36	焼岳、御嶽山
ランクC	活動度がともに低い活火山	36	乗鞍岳、白山 アカンダナ山
対象外	ランク分け対象外	23	
計		108	

す。また、東北地方太平洋沖地震発生以降、全国の活火山においては微弱な振動は観測されているものの目を追うことで減少傾向にあるとのことです。

気象庁では引き続き火山観測を行っており、状況に変化があればお知らせいたしますので、地震情報などにご注意ください。

問合せ

危機管理室  
353345

予報警報の略称	レベルとキーワード	火山活動の状況	住民の行動など	登山者・入山者への対応
噴火警報	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫した状態	危険な居住地域からの避難などが必要	
	レベル4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想、あるいは可能性が高まってきている状況	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時用援護者の避難などが必要	
火口周辺警報	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される状況	通常の生活 入山規制	登山禁止・入山規制、危険な地域への立入規制など
	レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される状況	通常の生活	火口周辺への立入規制など
噴火予報	レベル1 (平常)	火山活動は平穏	通常の生活	特になし